令和７年度 第１回安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

１	会 議 名	安曇野市自転車活用推進協議会
２	日　　時	令和７年８月25日（月）　午後１時30分から午後３時30分まで
３	会　　場	安曇野市役所　会議室307
４	出 席 者	益山会長、太田副会長、平林委員、佐藤亜紀子委員、小林可奈子委員、松島委員、半崎委員、小林毅委員、伴野委員、磯野委員、佐藤恵介委員、二木委員、花岡委員、河西委員代理
５	欠 席 者	村越委員
６	市出席者(事務局)	黒岩部長、丸山課長、小林係長、中田係長、佐々木主査 中澤課長（観光課）、小穴係長（建設整備課）、小畑係長（建設整備課）、矢口係長（地域づくり課）、千田係長（維持管理課）
７	公開・非公開の別	公開
８	傍聴人	なし

協　議　事　項　等

【次第】

１　開会
２　商工観光スポーツ部長あいさつ
３　会長あいさつ
４　新規委員の紹介
５　会議事項
⑴　安曇野市自転車活用推進計画に係る令和６年度の取り組み状況について・・・【資料１】
⑵　安曇野市サイクリングコース利用実態調査の結果を受けた今後の方針・・・【資料２】
⑶　計画各目標に対する目標値の設定について・・・【資料３】
⑷　安曇野市自転車ネットワーク計画の変更について・・・【資料４】
⑸　その他
６　閉会

【会議事項】
⑴　安曇野市自転車活用推進計画に係る令和６年度の取り組み状況について

＜事務局から説明＞【資料１】

委員１　　自転車を積載した車で来訪された方の駐車場を設定していただいたが、市だけではなく観光関係のHPでもPRをする必要があるのではないか。

事務局　　今後市のHPだけではなく、観光協会等と連携して広報していきたい。

副会長　　来年から自転車の反則切符制度が導入されるが、今後どのように周知していくか。

事務局　　今後制度周知のためのチラシを作成し、啓発活動を強化する予定である。

委員２　　来年に安曇野市マウンテンバイクコースにおいて全国自転車競技選手権大会が開催されることを市民にPRすることで、自転車への興味を高めていけると感じる。このような考え方を軸として予算を計上して今後取り組んでいく考え方はあるか。

事務局　　本大会は、主催が自転車競技連盟、市が主管となる。開催まで１年を切っているが、MSJと協力して地域ぐるみで取り組んでいく所存である。今回の開催をチャンスととらえ、マウンテンバイクコースを知ってもらうことからPRしていき、市民が自転車に乗ってみたいと思ってもらえるような施策を展開していきたい。

会長　　単にイベント開催で終わらせず、自転車の街であることを情報発信していければと思う。

委員３　　大会の開催が決まってから、多くのアスリートがマウンテンバイクコースに来訪するようになった。一流のマウンテンバイクの選手が、一般のお客さんや地域の小学生に声をかけたりしており、それだけで地域振興に貢献していると感じる。車に自転車を乗せて来訪する選手も多く、そのような人を地域の人が見ることで「自分も自転車に乗ってみたい」と思える人が増えてくれれ

ばと感じる。

⑵　安曇野市サイクリングコース利用実態調査の結果を受けた今後の方針

＜事務局から説明＞【資料２】

委員４　　サンプルのデータを市内と市外に分けて分析する必要性があるのではないか。サンプルの市内の人の割合はどれくらいか。

事務局　　アンケート回答者の全体の48％ほどが市内在住者であり、次いで松本市、県外者となっていた。

委員２　　市内の人がどのように考えているのかを再集計した方が良いのではないか。市内の人向けの施策を展開するのであれば、市内の人の動向により対処方法が変わってくる。サイクリングコース認知度が237人のうちの32％となっているが、この32％が市内居住者であればほとんどの人が知っているということになり、これ以上サイクリングコースの広報をする必要はないということになる。

事務局　　今回は市内・市外を一括して全体としての分析を行った。市内・市外の人がそれぞれどのように考えているかということは把握する必要があると感じるので、今後クロス集計等により、市内・市外の人向けのそれぞれの施策を改めて検討し、次回の会議で発表をさせていただきたい。

会長　　補足説明をさせていただくと、今回は利用者全体の調査となり、市民向けのものではない。近隣の人や観光者も知っているかどうかの視点から調査を行った。クロス集計を行うにしても母数が少ないため、今後も何度かアンケート調査を行い、変化を追跡していく必要があると考える。今後の調査について市で検討いただきたい。

委員２　　企業向けアンケート調査では自転車通勤者が４％となっている。資料１の取り組みについて、市役所内でスマートムーブ通勤を行っているが、非常に多くの人が参加している。比率にずれがあると思うが、この点についてはどう考えているか。

事務局　　スマートムーブ通勤者は自転車通勤者の比率ではなく、車以外のバスや電車での通勤及びエコドライブ運転に協力した人を計上している。それによりCO2を削減しようという趣旨の取り組みであり、自転車通勤者のみではないことは理解いただきたい。

委員２　　スマートムーブ通勤者の中の自転車通勤者の比率は判明するか。

事務局　　担当課に確認すれば判明する。

委員２　　市で自転車通勤のプロモーションをした結果、それにより自転車通勤者が多くなったということになれば、企業にも同じプロモーションをすれば自転車通勤者が増加するのではないかと感じる。是非ご検討いただきたい。

会長　　市で自転車通勤の促進に取り組んでいただき、そのやり方を企業に広めていければと思う。

委員５　　自転車の所有率については家族が所有していることも含まれているのか。

事務局　　「家に自転車がありますか」と質問しているため、家族の所有も含まれる。

委員５　　学生が自転車に乗り、大人が車に乗るという印象である。学生がいる世帯が所有しているという形になると思うので、観光協会としてどの世帯にアプローチしていくかの参考とするため質問をさせていただいた。

会長　　主に利用者が誰かということは聞いていないため、ご承知いただきたい。

委員６　　普段から自転車を利用する人の割合が49%だが、この49％の中に月に１回以上自転車に乗る人も含まれている。月に１回以上の人を「普段自転車に乗る人」として分析してよいものか。

会長　　細かい回答とすると、「毎日乗る」が25人、「週に２、３回乗る」が38人、週に１回が34人、月に１回が29人となる。一部、誤解を招く結果をお示しした。週に２、３回と答えた人が多い。この部分のクロス集計も必要と感じる。

委員４　　ヘルメットの助成制度を広めることで着用が普及していくという考察となったが、そもそもヘルメットを被る意味を理解していない人が多いと感じる。助成があるから買うのではなく、なぜ被るのかについて安全教育を再徹底していくべきだと感じる。

事務局　　最もなことである。ヘルメットがなぜ必要なのかということをふまえた上で購入をするべきであるので、今後の市の方針について「ヘルメットの安全性の周知」に係る文章を追記する。

⑶　計画各目標に対する目標値の設定について

＜事務局から説明＞【資料３】

委員７　　・健康志向や趣味のためにサイクリングする人の調査については、LINEアンケートを利用してみてはどうか。
・シェアサイクルの令和６年度の稼働が約4,000回に対し、売上が約200万円とのことであるが、１台あたりにすると500円となり、少ないのではないか。稼働率向上に向けた方法を模索する必要があるのではないか。
・サイクルオアシスとして協力する店は駐輪場を設置するなどもう少し協力いただくことはできないか。
・安曇野サイクルロゲイニングには、市職員は出たことはあるか。すごく面白いイベントであるので職員は是非知っていただきたい。
・素敵なサイクリングマップができて矢羽根なども整備されたが、実際走っている人はいるのだろうか。あづみのやまびこ自転車道は走行している人は多いと感じるが、サイクリングコースは走っている人が少ないと感じるので、やはり利用促進を考えないといけない。
・自転車の安全走行については、地域の美化や自転車利用しやすい道路環境整備が必要ではないか。一斉清掃の日などに、道路隅の土を除去したり、道路隅の草を刈るなど地域に依頼をすれば、やってくれる地域はあるのではないか。自転車で車道の隅が走れないと車との接触の危険性が高まり、車道隅の整備は重要であると感じる。自転車の走りやすい環境を目指していただきたい。

事務局　　サイクリングをする人の調査は、ラインアンケートではなく毎年行われている市民アンケートにて調査を行う予定である。

委員５　　シェアサイクルは17のステーションがあるが、もっと増やしてほしいという意見もある。ステーションを増やすことで移動距離が減り、単価が下がることもある。お客様の利便性と売り上げの部分のバランスを考えながら、都度見直しを行っている。稼働率の向上について貴重な意見をいただいたため、次回の見直しの際の参考とする。
サイクルオアシスについては、加盟条件の一つとして「駐輪スペースがあること」としているが、スペースの大きさやポートがあること等の決まりはない。今後検討する必要があるのかもしれない。
安曇野サイクルロゲイニングについて、なかなか市職員が週末に利用しているということは少ないが、本年度に事務局担当者が家族で参加された。ロゲイニング参加者は年齢層が高めだが、事務局担当者が小さいお子さんと参加され、家族で参加した際の意見等をいただいたりしたので、今後の改善に役立てたいと思う。

会長　　道路の安全性については、サイクリングコースのアンケート調査において危険な場所について回答をいただいたりもした。今後市民の力を借りて自転車が走行しやすい場所を作っていくことは必要であると感じる。

委員２　　目標値の設定は以前から提言していたことであり、設定を検討していただいたことは非常にありがたい話である。目標値は安曇野市総合計画とリンクしていることが重要であり、安曇野市の総合計画に根差した目標値を設定すべきであると感じる。
具体的には５本柱の価値創出プロジェクトの中の「AZUMINOブランドの発信」、「アウトドア・スポーツの聖地」であり、この総合計画の柱と自転車推進計画の目標値の設定を結びつけるべきである。AUMINOブランドの発信については「戦略的な観光プロモーション」の項目から関連付ける

と良いと感じる。アウトドアスポーツに関しては、先進的な取り組みであるマウンテンバイクコースのことを取り上げると良いのではないか。
以上のような上位方針とリンクする目標値設定を検討した方が良いのではないか。

事務局　総合計画との関連性については、結びつけるべきと感じる。もう一度目標値を見直し、改善するべき部分は改善していく。

⑷　安曇野市自転車ネットワーク計画の変更について

＜事務局から説明＞【資料４】

委員４　新規の選定路線は危ない場所であるため、選定路線として整備が進むのはとても良いと感じる。トンネル完成はいつごろか。

委員８　完成時期は未定であるが、トンネルの着工は早くても２年後の令和９年度を目標に進めている。

委員４　ネットワーク計画への選定路線の追加は、トンネル完成を待たずして追加するのか。現状まだ同路線を自転車で走行するのは危険であると感じるので、広報の時期は慎重にならないといけないのではないか。

事務局　選定路線となれば選定路線としての道路整備が可能となるため、トンネル完成を待たずしてネットワーク計画の選定路線として加える予定である。

委員３　この路線は確かに危険な道である上、雑草も多く生えている。マウンテンバイクコースまで自転車で来訪する学生も多く、うれしい話であるが帰宅で坂を下っていくことを考えると危ない運転をする車が多く非常に心配になる。

委員９　トンネル建設はありがたい話である。全日本選手権が開催になることに加えての取り組みであり素晴らしい取り組みである。観光複合施設となっている場所であるので、自転車利用者だけでなく観光客に対してもメリットのある話であり、１日も早く完成となってほしい。

委員３　トンネルの路肩が自転車通行を意識して１メートルの幅員となっているが、自転車専用の通行帯として樹脂でできたポールが立つなどの計画は検討されているか。

委員８　現状ポールを立てる計画はない。

会長　国際的なイベントが行われる際は、交通規制を行う予定はあるか。

事務局　現在のところ、交通規制の予定はない。

⑸　その他

委員８　○ジャパンアルプスサイクリングロードの矢羽根の設置について
県の管理部分については、矢羽根と路面表示の整備が完了した。

事務局　○アルプスセンチュリーライドについて
センチュリーライドは160キロと120キロのコースがあり、参加者は2500人以上で、9割は県外からの参加であった。エイドステーションで観光課・観光協会でわさびを使用したチーズやりんごジュースなどを提供し、参加者からは好評であった。

委員９　補足説明として、以前は160キロが人気であったが、最近は120キロの人気が高くなっている。自転車乗りの中には160キロを１日で走ることは一つの目標であるが、最近は楽しく120キロ走るという人が増えてきている。アンケートを行った結果、後泊の方が非常に多いという結果になった。安曇野市の課題として滞在を増やしたいというものがあるが、自転車乗りの人に連泊してもらっていろんなところに行ってもらえると良いと感じる。スポーツとして自転車で走る地域として、長野県は日本でもトップであると感じる。
資料１において、サイクリスト向けの駐車所を設定してもらってとてもありがたいが、インタ

ーに近い場所やお風呂がある場所などに設定できると更に良いと感じる。

委員１　観光協会や市は、センチュリーライドにどのような協力をしているのか。もっとデータをとって宿泊者の動向などを市政に活かしていけばよいのではないか。朝早くスタートして、山沿いを走るので、市民はあまりイベントのことを知らないと思う。機運を高めるために、もっと市民に広報をして、これだけ大きなイベントをやっていることをアピールしないともったいないと感じる。

委員９　観光課・観光協会の方には、毎年とても協力していただいている。

委員５　確かにデータを取ることは重要である。肌感覚のみではなく数字でデータ化し、今後に生かしていくということについて、貴重な意見として承知し、今後の参考としたい。

会長　安曇野市の広報をするうえでも非常に大規模なイベントであるので、観光のみではなく市民にも「自転車に力を入れている街だ」ということをアピールしていくと良いと感じる。

事務局　〇委員の改選について
現在、自転車活用推進協議会委員の皆様の委嘱の任期が本年10月末までとなっており、11月に委員が改選となる。公募については、既に市広報誌やホームページで募集を実施した。公募委員の選出についても順次手続きを進めていく。
なお、次回の協議会は、年内を予定しており、日程が決まり次第通知を発送予定となる。

〇全体を通しての質問・意見

委員２　センチュリーライドやマウンテンバイクの全日本選手権の開催など、安曇野市は日本の中でもトップの取り組みをしているのではないかと感じる。同様の取り組みをしている自治体と比較して、競争していくことも重要ではないか。次回からは比較資料なども添付していただけるとよいと感じる。

委員１　３年ほど前に、シェアサイクルの視察として、しまなみ海道に職員が行っていると思う。翌年の協議会で取り上げられ、その際にレポートを協議会で発表するという話になっていたが未だにレポートが発表になっていない。この場で委員に開示することは有意義であるので、次回の協議会でレポートを提出していただきたい。

事務局　レポートについて過去の担当者に確認とする。

副会長　三郷小学校、堀金小学校、穂高西小学校が子ども自転車大会に出場し、堀金小学校が県大会で優勝し全国大会に出場している。交通安全協会において、安全教育に力を入れていることは皆さんも是非承知をしていただきたい。

15時20分　了

令和７年度　第１回　安曇野市自転車活用推進協議会　会議次第

令和７年８月 25 日（月）
午後１時 30 分から
会場：共用会議室 307

１　開　会

２　商工観光スポーツ部長あいさつ

３　会長あいさつ

４　新規委員の紹介

５　会議事項
⑴　安曇野市自転車活用推進計画に係る令和６年度の取り組み状況について
…　【資料１】
⑵　安曇野市サイクリングコース利用実態調査の結果を受けた今後の方針
…　【資料２】
⑶　計画各目標に対する目標値の設定について
…　【資料３】
⑷　安曇野市自転車ネットワーク計画の変更について
…　【資料４】
⑸　その他

６　閉　会

【資料１】

安曇野市自転車活用推進計画　令和６年度取り組み状況について

目標		施策		取り組み		R６年度取組状況 項目	R６年度取組状況 事業	R６年度取組状況 実績	成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
1	自転車を活用したスポーツによる健康づくりの推進と青少年の健全育成	1	サイクルスポーツの推進	1	サイクルスポーツイベント、教室等の開催	マウンテンバイクコースイベントを開催	3周年記念安曇野市MTBコースフェスティバルを開催（R6.10.5）。 トライアル、MTB教室、e-MTB体験、ストライダー体験会等様々なイベントを実施。	参加者　約300人 MTB教室17人、e-MTB体験4人 ストライダー体験26人	市内外から多くの利用者が訪れた。 市民が自転車に長く乗るきっかけづくりのため、今後も継続的にサイクルスポーツイベントを開催としたい。	R7.10に開催の新規サイクルイベント実施に向けた準備	継続的なサイクルイベントの開催。	スポーツ推進課	1
						教室等の開催	MTBコース指定管理者MSJが主体となり、MTB教室を開催 ①児童館における出張体験会 ②スポーツ少年団中信地区（市外も含む）対象の体験会 ③堀金歴史民族資料館クラブ会員を対象とした体験会 安曇野市主催 ④安曇野市サイクリング教室開催	①10名 ②9名 ③57名 ④3名	様々な団体と協力し、MTB体験会を開催することができた。 安曇野市サイクリング教室ではe-MTBを用いて教室を実施し、自転車の正しい乗り方等を学んでいただくとともにe-MTBにも触れていただく機会を設けることができた。 （子ども用のマウンテンバイクが不足していたことが課題であったが、令和７年度に14台追加購入した。）	令和７年10月に一般の自転車を用いたサイクリング教室を開催予定	内容を見直しながら次年度も教室を開催する。	スポーツ推進課	2
						全国大会の誘致	安曇野市ＭＴＢコースが2026年（令和８年）に開催される第39回全日本自転車競技選手権大会の開催地として正式に決定した。	R7.3　内定	安曇野市に日本最大規模の大会を誘致することができたことが大きな成果である。 初めて行う大会であるので、運営方法や実行委員会の進め方、既定のコース幅の確保、駐車場の確保等が課題である。	令和７年７月に実行委員会を立ち上げ、運営体制や今後の予定を確認した。 本年度開催の全日本選手権大会の視察を実施（兵庫県たつの市）	・必要な道路幅（スタート地点）を確保するための工事 ・駐車場の確保 ・予算の計上 ・協賛金の確保	スポーツ推進課	3
				2	サイクルスポーツ環境の充実	サイクルスポーツ経験者の発掘	市主催のサイクリング教室の講師に、一般社団法人MSJの社員を起用	１名	市主催の教室において、サイクルスポーツ経験者の活躍の場を提供できた。	他の経験者を本年度のサイクリング教室の講師に起用予定である。	情報収集を行い、起用できる経験者等がいれば活躍できる環境を提供できるよう努める。	スポーツ推進課	4
				3	e-bike・電動アシスト自転車利用の促進	環境フェア2024	e-MTBの体験試乗会ブースを出展	10/12・13開催　59人参加	前年は30名参加であったが、大幅に体験者が増加した。	別のイベントにおいて体験会を開催予定であり、準備を進めている。	各種イベントとタイアップする等、さらなるPR機会の検討を行う。	スポーツ推進課 環境課	5

目標		施策		取り組み		R6年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項　目	事　業	実　績					
1	自転車を活用したスポーツによる健康づくりの推進と青少年の健全育成	1	サイクルスポーツの推進	3	e-bike・電動アシスト自転車利用の促進	MTBコースにおけるe-MTB試乗会	MTBコースにおいてヤマハ主催のe-MTB試乗会を行い、e-MTB利用の促進を図った。	試乗者44名	マウンテンバイクコース３周年イベントにおけるe-MTB体験やe-MTBを用いた教室を開催し、例年以上にe-bike体験の機会を設けることができた。	MTBコースにおいて同様の企画を準備中。	さらなるPR機会の検討	スポーツ推進課	6
		2	自転車を活用した健康づくりの推進	1	サイクリング、サイクルスポーツの普及活動の推進	イベントにおけるサイクリングマップの配布	・VC長野トライデンツの試合会場にブースを設け、サイクリングマップ配布等のPRを行った。 ・県外マラソン大会出店時においてマップの配布を行った。	各１回	県外者にサイクリングコースのPRを行うことができた。	サイクリングコースの利用を促進するため、市主催イベント開催にむけた調整を行っている。	PR機会の検討	スポーツ推進課	7
				2	健康増進の広報啓発	自転車の運動効果の周知	自転車の運動効果とサイクリングコース紹介のチラシを作成し、若年者健診（20～39歳対象）で配布	3日間227人に配布	日常生活での自転車利用を習慣化することで、身体活動の向上、運動習慣の定着が図られ、生活習慣病の予防につながることを周知した。	自転車の運動効果について、健診等で情報提供を行う。	現在の取り組みを継続	健康推進課	8
				3	介護予防の推進	未実施						高齢者介護課	9
		3	スポーツ活動を通じた青少年の健全育成	1	サイクルスポーツ団体の活動支援	サイクルスポーツ団体の活動支援	①放課後クラブ活動の受け入れ（指定管理者（MSJ）の自主事業活動） ②堀金小学校クラブ活動におけるMTBクラブ講座の実施	①R6.4から開設。所属人数５名（R6年度末時点） ②３回実施（小学生７名が参加）	①中学生以上の受け入れができないことが課題であった。 令和７年度より中学生も対象年齢に加えるものとし、定員も15名に拡大できたことが成果である。 ⇒R7.5に定員に達し締め切り ②課外授業の一環として、MTBを経験してもらうことができた。 課題：クラブや学校活動をきっかけに施設へ訪れる子供たちが増えたものの、事業を開催するにあたり、職員への負担が増加。	放課後クラブとして毎週水曜日１６：３０～１８：３０まで開催。昨年に続き堀金小学校クラブ活動を１０月～１１月に渡り３回実施予定。 R7.7月三郷中学校職場体験会受入れ５名（１名欠席）	現状５月～10月まで実施している放課後クラブ活動を、短期スパンで複数回実施する等して、より多くの児童が参加できるよう今後期間の検討を行う。	スポーツ推進課 学校教育課	10
2	自転車を活用した周遊・滞在型観光振興による地域の活性化	1	安曇野サイクルブランドの構築	1	自転車と安曇野の歴史、文化、景観、食を生かした観光コンテンツの開発	安曇野サイクルブランドの構築	自転車を用いた観光ツアーの造成 1）旬のりんご収穫体験 サイクリングとアップルパイ作り 2）わさび収穫体験と水巡りサイクリング	企画2本　21名	安曇野の自然を体感でき、収穫体験ができるツアーは好評であった。 安曇野らしさと季節感のある商品作りが課題	課題内容のとおり、観光協会と協議していく	自転車を用いた観光ツアーの充実に向けた検討	観光課	11
				2	シェアサイクル・レンタサイクルを活用したポタリングの推進	シェアサイクルの活用促進	シェアサイクルの稼働	利用数 3,965回	利用数は前年比123%となった。 シェアサイクルポート設置場所毎の利用料の差が課題	実績に基づいた適正なポート及び自転車の配置について検討中。	同左のとおり、データに基づいた配置について検討を継続していく。	観光課	12
				3	自転車の種類や地域の特性を生かしたモデルルートの設定	未実施						観光課 スポーツ推進課	13
				4	ICT等を活用した情報発信	Web、SNS、動画の活用	安曇野市観光協会の公式インスタグラムにおいて、自転車関連の投稿を実施	投稿７回	安曇野サイクルログイニングに係る投稿を積極的に行ったところ、ログイニング参加者が過去最高値となった。	情報発信の継続	有料広告を用いた、新規ターゲットの開拓について検討中。	観光課 スポーツ推進課	14

目標		施策		取り組み		R6年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項　目	事　業	実　績					
2	自転車を活用した周遊・滞在型観光振興による地域の活性化	1	安曇野サイクルブランドの構築	5	市民・来訪者向けイベント開催時における自転車利用のPR	安曇野サイクルロゲイニング2024の開催	移動手段を自転車のみとしたイベントの開催	113名	専用アプリの開発により、参加者の利便性向上を図ることができた。 リピーター、ファンづくりに向けた内容を充実させていくことが課題である。	サイクルオアシスの情報発信等も併せて行い、新規参加者の増加に向けた取り組みを継続	同左	観光課	15
		2	広域連携・官民連携の推進	1	「Japan Alps Cycling」等と連携した広域的なサイクリング環境の整備	市内サイクリング環境整備	矢羽及び看板の設置	市内（市管理分）の矢羽及び看板の設置	市道堀金１級１号線ほかの矢羽及び看板設置	既存ルートの一部変更について、県と調整を行っている。	ルート変更検討の継続	建設整備課 観光課	16
				2	「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」等の事業との連携	自転車によるまちづくりの先進事例に関する情報共有	勉強会や会議等への参加	４回参加	各自治体の補助金制度（自転車購入補助）等について学ぶことができた。	勉強会、会議参加の継続	他自治体の購入補助制度等を参考に、新たな補助金制度の導入について検討を行いたい。	スポーツ推進課	17
				3	官民協力による自転車活用のための環境整備と民間主導によるプラットフォームの立ち上げ	未実施					未定	観光課	18
				4	官民事業等、自転車活用に関する情報収集と積極的な発信	①中国版SNSへの記事投稿 ②るるぶへの記事掲載	①長野県観光機構に委託し、中国版SNSレッドへ、安曇野市でのサイクリングに関する記事を掲載。 ②「るるぶ安曇野・松本・白馬」にあづみのやまびこ自転車道及び安曇野市サイクリングコースに係る記事を掲載。	①２回配信　閲覧数　7,331 いいね・シェア等　856回 ②掲載依頼を実施　安曇野市HP（サイクリングコースのページ）のURL掲載	①中国語にて発信を行い、中華圏観光者の安曇野市でのサイクリングを促進 ②観光客向けの情報誌にてサイクリングコースの存在をPRできた。	さらに効率的な広報媒体がないか、情報収集を行っている。	新たな広報媒体を使用し、積極的な自転車に係る広報を実施したい。	観光課 スポーツ推進課	19
				5	公共交通との連携による広域的な利用環境づくり	サイクルトレインの運行	大糸線活性化協議会が実施する事業として、9/28（土）、10/19（土）に運行。	各日30名	JR西日本が運行する区間（南小谷～糸魚川）においてサイクルトレインを実施したが、安曇野市域を含むJR東日本区間では導入に至っていない。	導入に向けた議論の継続	同左	政策経営課	20
		3	受入れ環境の整備・充実	1	サイクルオアシス、サイクリングガイドなど受入サービス体制の構築	安曇野サイクリングオアシスの推進	安曇野サイクリングオアシス加盟店舗の増加に向けた取り組み	現在62件	市内店舗においてサイクリングオアシスの知名度が低いことが課題である。	加盟することのメリットについて広報を実施する。	観光協会が市内店舗に対し、加盟に対する呼びかけを行っていく	観光課	21
						自転車を積載した車両来訪者専用の駐車場を設置	既存の駐車場をサイクリスト向けの無料駐車場として設置	下記３か所の駐車場を指定し市HPにて広報を実施。 ・堀金総合体育館 ・穂高会館 ・安曇野穂高駐車場	安曇野市サイクリングコース利用者及び白馬方面へのサイクリストを想定した駐車場を設置することができた。	サイクリスト用駐車場の運用の継続	サイクリスト用駐車場の運用の継続	スポーツ推進課	22
				2	多言語化、ユニバーサルデザイン化へ取り組み推進と訪問者へのおもてなし向上	自転車ガイドの導入	自転車を含むアクティビティガイドの育成	2名	自転車だけでなく、他アウトドアなど複合的なガイドの育成が課題である。	左記課題をふまえた既存の２名のガイド育成	育成の継続	観光課	23
3	自転車利用促進による環境負荷の低減	1	自転車通勤等の促進	1	自転車利用のメリットに関する広報啓発	未実施				広報機会の検討	市HP、SNSにおいて記事掲載を行いたい	環境課 ゼロカーボン推進課	24

目標		施策		取り組み		R6年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項　目	事　業	実　績					
3	自転車利用促進による環境負荷の低減	1	自転車通勤等の促進	2	職場（事業所）への自転車配置及び近距離移動利用	市職員スマートムーブ通勤の実施	市職員スマートムーブ通勤（ノーマイカーまたはエコドライブ通勤）の実施	6月：788人参加、2,017kg-CO2の削減 9月：809人参加、3,989kg-CO2の削減	市役所以外の企業への浸透が図れていないことが課題である。	市職員スマートムーブ通勤の実施（6月） （年2回、6月・9月）	市職員スマートムーブ通勤の実施（9月） （年2回、6月・9月）	ゼロカーボン推進課	25
				3	eバイク・電動アシスト自転車利用促進	環境フェアにおけるe-bikeの展示	展示を行うとともに、e-bikeの試乗体験会を実施。	59名が乗車	前述	前述	前述	環境課	26
		2	自転車リサイクルの推進	1	不要自転車のリサイクル	①10月の安曇野環境フェアで自転車を販売 ②自転車を資源物としてリサイクル	不要となった自転車を各リサイクルセンターで回収 状態の良い自転車は修理再生を行い環境フェアで希望者に販売 傷みがひどく、再生に向かない自転車は資源物としてリサイクル	①環境フェアで60台の自転車を販売 ②8,780kgの自転車を資源物としてリサイクル	・多くの不要自転車を再使用・再利用につなげることができ、環境負荷の低減に寄与できた。 ・販売する自転車の整備にかかる手間及び整備士の不足、リサイクルに係る費用が課題である。	次年度に向けた自転車業者との調整、協議を行っていく。	事業の継続	環境課	27
4	自転車通行空間の整備と利用環境の向上	1	自転車ネットワーク計画の推進	1	自転車ネットワーク計画の推進	コース整備（Aコース）	ルートマーカー設置（改良工事等によりR2未整備の箇所）	L=1,000m（110箇所）	Aコースの市道について、ルートマーカー設置完了	ネットワーク計画策定路線の変更について協議（詳細は別途報告）	新設の策定区間において、矢羽根、標識の検討を行う。	スポーツ推進課 建設整備課	28
		2	安曇野市サイクリングコースの活用	1	安曇野市サイクリングコースの設定	①サイクリングコースパンフレットの改訂・増刷 ②サイクリングコースの利用実態調査の実施。	①サイクリングコースマップの増刷に伴い、記載内容に乖離が生じている部分において情報の修正を行った。 ②松本大学に委託し、サイクリングコースの利用実態アンケートを実施。	①2000部増刷 ②308人のアンケート結果による報告書の作成	サイクリングコースの現状の利用実態及び課題が把握できた。 今後の方針については別途報告。	サイクリングコースを活用したイベント、教室開催に向けた準備	サイクリングコースの利用促進に向けたPR	スポーツ推進課	29
		3	自転車通行空間の環境整備	1	①明科駅前国道19号	未実施	ー	ー	ー	国管轄道路（長野国道事務所）直轄事業の駅前歩道整備事業にて自転車通行空間も確保する計画 歩道は順次整備を進めているが完成時期は未定	現在の取り組みを継続	建設整備課	30
					②市道豊科1級２４号線	矢羽根設置済み	ー	ー	ー	補修の必要があれば都度対応する	同左		
					③市道豊科１級１５号線	矢羽根設置済み	ー	ー	ー	補修の必要があれば都度対応する	同左		
				2	道路標識・道路標示・信号機の適切な設置・運用	適宜対応	ー	ー	ー	ー	継続事業として実施していく。	建設整備課	31

目標		施策		取り組み		R6年度取組状況			成果及び課題	現在の取組	今後の事業（次年度含む）	担当課	通番
						項　目	事　業	実　績					
4	自転車通行空間の整備と利用環境の向上	3	自転車通行空間の環境整備	3	道路の適切な補修	道路の適切な補修	安曇野市公式LINEを用いた道路破損状況等の通報を受け付け、逐次対応するもの。 市民のみならず、郵便局やヤマト運輸とも連携し破損状況を報告してもらっている。	受付件数　196件	定期実施している道路パトロールでは発見しきれない破損の把握が可能となり、管理業務の効率化を向上させることができた。 国県道の場合の連絡体制がアナログ的であり手間を要することが課題である。	受付を継続。 通報箇所が市の管轄でなかった場合、自動的に国・県につながるようシステム改修について検討を行う。 ヤマトとの包括連携協定の中に、道路損壊箇所を見かけたら市に通報することを盛り込んだ。迅速な道路修繕を図る。	受付を継続予定 国県道の連絡体制の簡略化（システム改修）について検討を継続	維持管理課	32
		4	駐輪場やサイクルスタンド等の設置	1	駐輪場の整備（再整備予定施設） ア　明科駅 イ　安曇追分駅 ウ　有明駅	ア　完了 イ　竣工し共有開始、完了 ウ　実施設計し発注	左記同様	左記同様	ア、イ　供用が開始され、目標項目のとおりとなった。 ウ　入札を実施し、冬前までに供用開始を目指す。	ウ　受注業者と打ち合わせし、完了を目指している。	現在のところ予定なし	都市計画課	33
				2	サイクルスタンドの設置	駐輪場設置の推進	安曇野サイクリングオアシス加盟店の駐輪場設置の推進	加盟店の9割以上が設置	加盟店の多くが駐輪場の設置に協力的であるが、そもそもの加盟店舗が少ないことが課題である。	・加盟店舗の拡大にむけた取り組み ・観光施設へのサイクルスタンド増設の検討	サイクリングオアシスの加盟店増加に向けた募集活動の推進	観光課	34
				3	自転車と公共交通との乗り継ぎ連携	サイクルトレイン運行に向けた要望	篠ノ井線について、活性化協議会を通じてJRへ導入を要望	1回要望を実施	導入に至る進展なし。 篠ノ井線（塩尻～篠ノ井）は乗客数が多く、安全性やスペース上の観点から既存の車両を使ったサイクルトレイン運行は難しい状況。	要望の継続 実現可能性の検討	同左	政策経営課	35
5	自転車事故のない安全・安心な社会の実現	1	効果的な交通安全教育の推進	1	ライフステージに応じた交通安全教育を実施	①自転車安全利用五則を中心とした自転車交通ルールの遵守とマナー向上対策の促進 ②自転車用ヘルメットの着用促進 ③自転車賠償責任保険の加入促進 ④日常的な点検・整備の促進	1　①～④について小中高等学校において、交通安全教室を実施。 2　①～④について、高齢者対象の参加・体験・実践型交通安全教室を開催。 3　②について、市内駅及び市内企業において、自転車利用者を対象としたヘルメット着用の啓発活動を行った。 4　②について、市内自転車利用者を対象とした自転車用ヘルメット購入費支援事業を行った。 5　①、④について、市内小学校自転車部へ呼びかけ、第57回交通安全子供自転車安曇野地区大会を開催。（安曇野市、安曇野警察署、安曇野交通安全協会共催）	1　16回実施（小学校10校、中学校5校、高等学校１校） ※高等学校（穂高商業高等学校）については、JA共済長野県本部主催によるスケアードストレイトを実施 2　2回実施（穂高自動車学校で開催） 3　3回実施（穂高駅、南豊科駅、デンソーエアクール穂高本社工場） 4　申請者823人 5　R6.6.14実施（小学校　3校参加） ※堀金小学校及び穂高西小学校は地区大会同率優勝及び県大会出場 また、堀金小学校は県大会優勝及び全国大会出場	交通安全教室を通じて学生から高齢者に対して、自転車の正しい乗り方を指導することができた。 また、令和６年４月１日からは、自転車用ヘルメット購入費支援事業を実施したため、ヘルメットの正しい着用方法等について指導するとともに、補助金事業の啓発活動を実施した。 市内におけるヘルメットの着用率は、約35％と（令和６年７月実施）まだ低調である。 また高校生年代の自転車事故割合は増加していることから、引き続き補助金事業や啓発活動を通じて高校生年代を中心とした自転車事故件数及び事故による重症化リスクを減少させていかなければならない。	駅前の駐輪場において街頭活動を新規に実施する等、自転車利用者への呼びかけ機会の創出。 自転車用ヘルメット購入費支援事業の継続及び制度周知に向けた市内販売所・整備店へのチラシ配布。 ヤマト運輸との「安全・安心な地域づくりに関すること」の内容を盛り込んだ地域連携協定をR7、３月に締結しており、現在共同での交通安全教室の開催に向けた調整を行っている。	自転車用ヘルメット購入費支援事業の継続 現在交通安全協会で行っている自転車利用に関する出前講座を令和８年度から市が実施する方向で調整中。市実施の出前講座一覧として市内各区に共有されることになり、安全教育機会の創出に寄与される。 ヤマト運輸が実施しているスケアードストレートを盛り込んだ交通安全教室を、市内各小学校において実施予定。	地域づくり課	36

資料２

安曇野市サイクリングコース利用実態調査の結果を受けた今後の方針

調査結果

市内各所における聞取り調査

スイス村、イオン豊科店、道の駅ほりがねの里、室山アグリパーク、しゃくなげの湯で実施　　237 人から回答

１　交通動向

自転車でアンケート場所まで来訪した人　12%（29/237）

２　自転車利用動向

自宅に自転車を保有している人　74%（175/237）

普段から（月に１回以上）自転車に乗る人　49%（116/237）

普段安曇野市内を自転車で走る際、どんな地図を参考にして走るか

サイクリングマップ 9%（11/116）

（地図を見ると回答した人のみで集計すると 38%(11/29)）

グーグルマップ 10%（12/116）

地図を利用しない 44%（51/116）

自転車が健康に役立つと考えている人　89%（210/237）

３　サイクリングコース利用実態

サイクリングコースを知っている人　32%（76/237）

うち市 HP・広報誌で知った人　39%（30/76）

（次いで家族・友人 28%、口コミ 15%、SNS 4%）

距離についてどう思うか（237 人のうち回答者 176 人）

長い 42%（74/176）、妥当 56%（98/176）、短い 2%（4/176）

長いと回答した人のうち、妥当な距離についてどう思うか

10 キロ～20 キロ　76%（56/74）

４　安全走行

ヘルメット着用率　53%（126/237）

購入補助があれば購入を希望する人　65%(153/237)（着用者も含む）

企業向けオンライン調査

市内企業７社、71 人から回答

（㈱マル井、日本エフディ㈱、㈲多田プレシジョン、安曇野本多通信工業㈱、ｼﾞｪｰｼｰｼｰｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱、㈱マルイチマシン、㈱サン工機）

１　交通動向

自転車で通勤する人　４％（3/71）

２　自転車利用動向

自宅に自転車を保有している人　76%（54/71）

普段から自転車に乗る人　25%（18/71）

利用用途は多い順に買い物、健康増進、気分転換

普段安曇野市内を自転車で走る際、どんな地図を参考にして走るか

サイクリングマップ 11%（2/18）

（地図を見ると回答した人のみで集計すると 29%（2/7））

グーグルマップ 17%（3/18）

地図を利用しない 61%（11/18）

３　サイクリングコース利用実態

サイクリングコースを知っていて、一度でも走行したことがある人 20%（14/71）

うち市 HP と広報誌で知った人　50%（7/14）

（次いで家族・知人 29%（4/14））

４　安全走行

ヘルメット着用率 34%（24/71）

購入補助があれば購入を希望する人　55%(39/71)（着用者も含む）

課題・考察

１　交通動向

圧倒的に自動車を使用する人の割合が高い。

２　自転車利用動向

「自転車を保有しているが普段乗らない人」にいかに乗ってもらえるかが課題である。

健康に役立つという認識の人が非常に多く、また前述の通り保有している人も 75%に上ることから、いかに背中を押してあげるかに焦点を当てて施策を推進していく必要がある。

車で通勤している人であっても、自転車を保有している割合は高い。通勤以外の私生活において、買い物、健康増進及び気分転換として自転車利用を促していくことが効果的であると思料される。

３　サイクリングコース利用実態

市が HP や広報誌で周知することの重要性を示唆する結果となった。

また、グーグルマップのみを見ながら走行する人もいることから、グーグルマップ上でもサイクリングコースを閲覧可能なことについて広報活動を強化する。

地図を見ないと回答した人が 27%に上ることから、地図を見なくても周遊できるような環境づくりを構築する必要がある。

既存のコース距離が長いと感じ、10～20 キロのコース設定を望む声が多いことが明らかになった。

４　安全走行

ヘルメット購入補助制度を広報することで、保有率・着用率を高めることが示唆される結果となった。

今後の方針

- **市広報誌で特集を組む等の情報発信、市主催イベントの実施や自転車教室の開催等様々な方法で自転車の利用促進を行っていく。**
- **サイクリングコースの利用促進に向け、HP や広報誌での自転車に関する広報記事を積極的に掲載し、市民や来訪者が安曇野市サイクリングコースに関して目にする機会を増やしていく。**
- **グーグルマップ上で閲覧可能であるサイクリングコースマップのルート情報についても適宜情報の更新を行う。**
- **地図を見ない人向けに、サイクリングコース上の矢羽根・案内看板の充実に努める。**
- **ヘルメット購入場所におけるチラシの掲示、新年度前における街頭啓発活動の実施等購入補助制度の周知に向けた活動を強化する。**

資料３

自転車推進計画　各目標に対する目標値

目標１　自転車を活用したスポーツによる健康づくりの推進と青少年の健全育成

健康志向からの自転車利用者の増加

「健康増進や趣味のためにサイクリングをすることがある（健康志向からの自転車通勤、買い物等での自転車の積極的利用も含む）」と答える人の割合の増加

R3 年度市民アンケート調査　23%　　R6 年度市民アンケート調査　17.5%

⇒R9 年度　25%を目標とする

目標２　自転車を活用した周遊・滞在型観光振興による地域の活性化

シェアサイクル利用の促進

シェアサイクルを用いた観光促進

R6 年度　（3,965≒）4000 名

⇒R９年度　5,330 名を目標とする

サイクルオアシスの増設

サイクリストへのトイレ・情報提供やサイクルラックが常設されたサイクリストに優しい店舗であるサイクルオアシスの増設

導入した R4 年度から現在まで 60 件前後を推移（R６年度　62 件）

⇒R９年度　68 件を目標とする

安曇野サイクルロゲイニング参加利用の促進

自転車を利用して安曇野市内を巡り、ポイントを集める安曇野サイクルロゲイニングの利用者の増加

R6 年度　参加者 113 名

⇒R9 年度　150 名を目標とする

目標３　自転車利用促進による環境負荷の低減

自転車利用のメリットに関する広報啓発

自転車の環境負荷への低減に係る効能等について広報誌、HP、SNS 等で紹介

R3～R6 年度　0 回

⇒R9 年度　２回以上実施する

目標４　自転車通行空間の整備と利用環境の向上

安曇野市サイクリングコースの整備

サイクリングコースの設定に伴う、コース上全区間の矢羽根・看板の設置

⇒計画策定時未達成であったが、矢羽根、看板は全区間に設置完了済

サイクリングコース利用促進

広報誌、HP、SNS 等において、コース認知度向上に向けた情報発信・動画配信

R6 年度　１回

⇒R9 年度　広報誌、HP、SNS 等において３回以上実施する

（※第２次推進計画策定のための市民アンケートにコース認知度を測る項目を盛り込み、市民認知度 50%以上を目標とする）

目標５　自転車事故のない安全･安心な社会の実現

ヘルメット着用促進

ヘルメット着用の重要性等について普及啓発活動を行い、着用率の向上を目指す

R6 地域づくり課調査 34%

⇒R9 年度　50%以上を目標とする

自転車関連事故の発生件数

警察と協力し、ドライバー、自転車利用者双方への安全意識を高める活動を行い、安曇野市内の自転車関連事故の発生件数の減少を図る

R3　34 件　　R4　21 件　　R5　32 件　　R6　23 件

⇒R9 年度　20 件以下とする

資料４

安曇野市自転車ネットワーク計画　変更案

令和２年から整備された安曇野市サイクリングコースは、当初は安曇野市マウンテンバイクコース（「以下「MTB コース」とする。」はオープンしておらず、同所まで巡るルート等について検討がなされなかった。

現在 MTB コースは、指定管理者である一般社団法人 MSJ により、安曇野市の自然の魅力を活かした MTB コースの監修・整備が行われており、利用者の増加に努めている。

また、令和８年度には、MTB コースにて全日本自転車競技選手権大会の開催が決定しており、大規模な大会が開催された同コースを、市内外を問わず多くの方に利用していただきたいと考える。

⇒ 安曇野市自転車ネットワーク計画選定路線に MTB コースまでの路線を追加としたい。
既存の計画選定路線として
ア 安曇野市サイクリングコース
イ あづみ野やまびこ自転車道
ウ Japan Alps Cycling Road
エ 北アルプス地域サイクリングモデルコース
の４路線が存在するが、ここに
オ 国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）から安曇野市マウンテンバイクコースまでの区間
を追加したい（別添資料参照）。

⇒選定路線の変更に併せて、今後矢羽根、看板等の整備を関係部署と検討する。
さらに、同区間に、約４００メートルのトンネルの施行が検討されている（別添添付資料参照）。
同トンネルは自転車の通行を想定されたものであり、同トンネルが完成すれば、より快適にMTBコースまでの自転車による往来が可能となる。

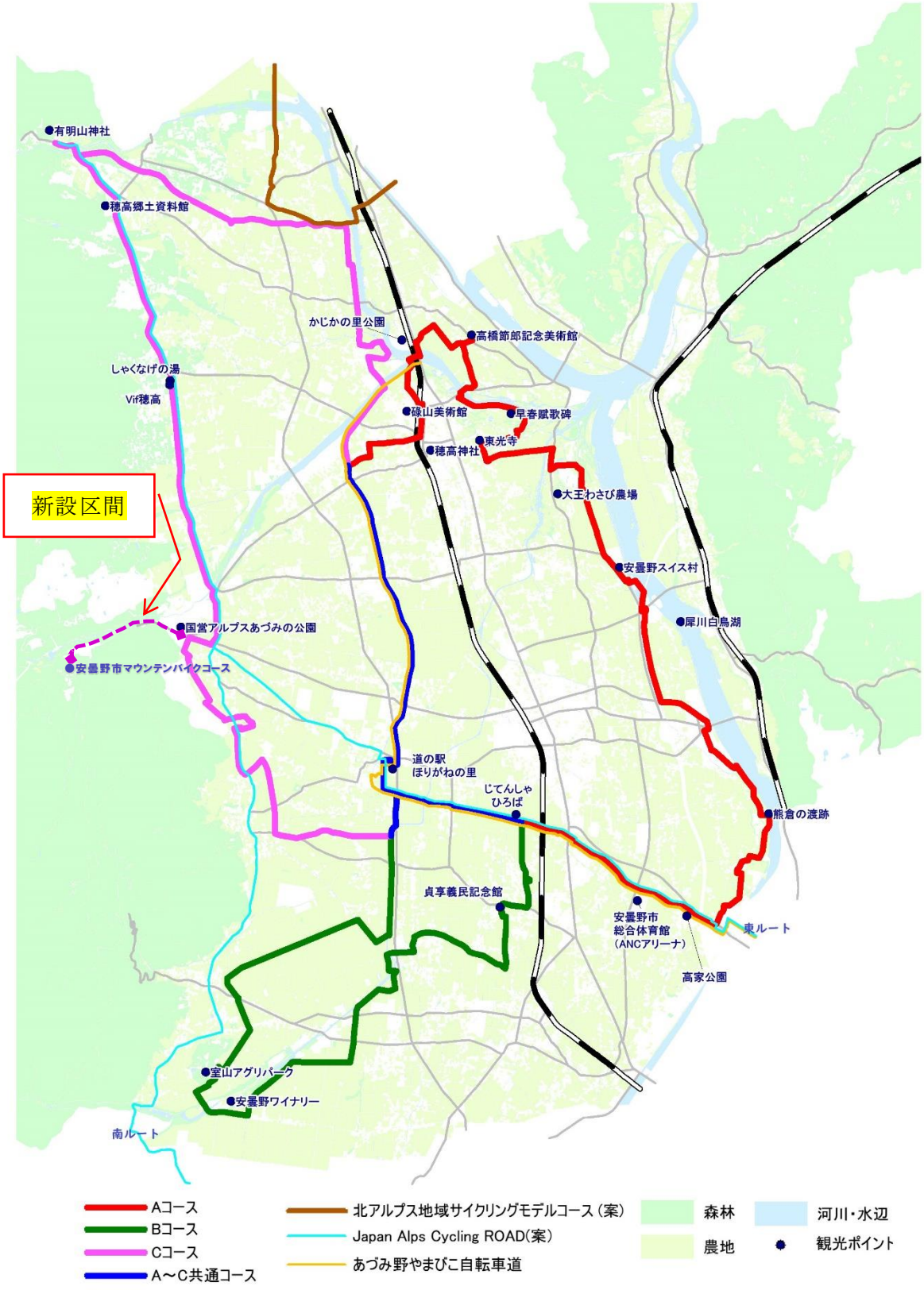
目標4 自転車通行空間の整備と利用環境の向上

施策	取組み
施策1 自転車ネットワーク計画の推進	(1) 自転車ネットワーク計画の推進 「自転車ネットワーク計画」とは、自転車が連続的に通行可能なネットワーク路線を選定し、その路線の整備優先性や整備形態等を示す計画をいいます。自転車活用推進計画策定にあたり、自転車ネットワーク計画を策定し、推進します。 安曇野市自転車ネットワーク計画 1 計画の基本的事項 (1) 趣旨 安曇野市自転車活用推進計画を策定するにあたり、本計画を策定します。 (2) 位置づけ 本計画は、既に策定されている安曇野市道路整備推進計画などの諸計画が定める基本目標や施策のほかに、自転車が連続的に通行可能なネットワーク路線を選定するためのものです。 (3) 計画期間 令和4年度から令和9年度まで 2 基本目標 自転車で安全かつ快適に回遊できる道路整備を進める。 3 基本方針 (1) 観光・市民の健康づくりやレクリエーションに関するニーズへの対応 (2) 広域的なサイクルツーリズムへの対応 4 選定路線 (1) 「観光・健康づくり・レクリエーションのための路線」とし

施策	取組み
	て、次のとおり選定します。 ア 安曇野市サイクリングコース イ あづみ野やまびこ自転車道 ウ Japan Alps Cycling Road エ 北アルプス地域サイクリングモデルコース オ 国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）から安曇野市マウンテンバイクコースまでの区間 (2) 各路線について ア 安曇野市サイクリングコース 3つのコースについて、整備を進めるものです。 イ あづみ野やまびこ自転車道 あづみ野やまびこ自転車道は、長野県が自転車の安全利用を主たる目的として整備した大規模自転車道です。安曇野市道路整備推進計画では、当該自転車道を自転車等優先幹線として位置付けており、また本市のサイクリングコースにおいても一部を利用していることをふまえ、本市管轄道路において必要となる整備を進めるものです。 ウ Japan Alps Cycling Road Japan Alps Cycling Roadは、山岳高原、様々な風土を持つ県土を自転車を利用して周遊することで、変化する四季や文化を何度も感じてもらえるモデルルートとして長野県が設定するものです。コース上に位置する本市では、沿線における事業展開等を通じて自転車によるまちづくりを推進するため、本市管轄道路において必要となる整備を進めるものです。 エ 北アルプス地域サイクリングモデルコース 北アルプス地域サイクリングモデルコースは、北アルプス地域振興局及び関係市町村により整備が進められているものです。このコースの一部が本市を通過すること、及び本市の観光客の中には、北アルプス地域を含めた観光を行う方も少なくないことをふまえ、本市管轄道路において必要となる整備を進めるものです。

施策	取組み
	オ 国営アルプスあづみの公園（堀金・穂高地区）から安曇野市マウンテンバイクコースまでの区間 Japan Alps Cycling Road と繋がる同区間上には国営アルプスあづみの公園や烏川渓谷緑地など安曇野市の自然豊かな施設が存在しています。同所を巡りながら安曇野市マウンテンバイクコースを目指し、サイクリングに加え、マウンテンバイクも体験していただくことで安曇野市の自然を活かしたアウトドアスポーツを堪能していただきます。サイクリストが快適にマウンテンバイクコースまで自転車で目指していただけるよう必要な整備を進めます。

安曇野市自転車ネットワーク計画選定路線



現状と課題、事業目的

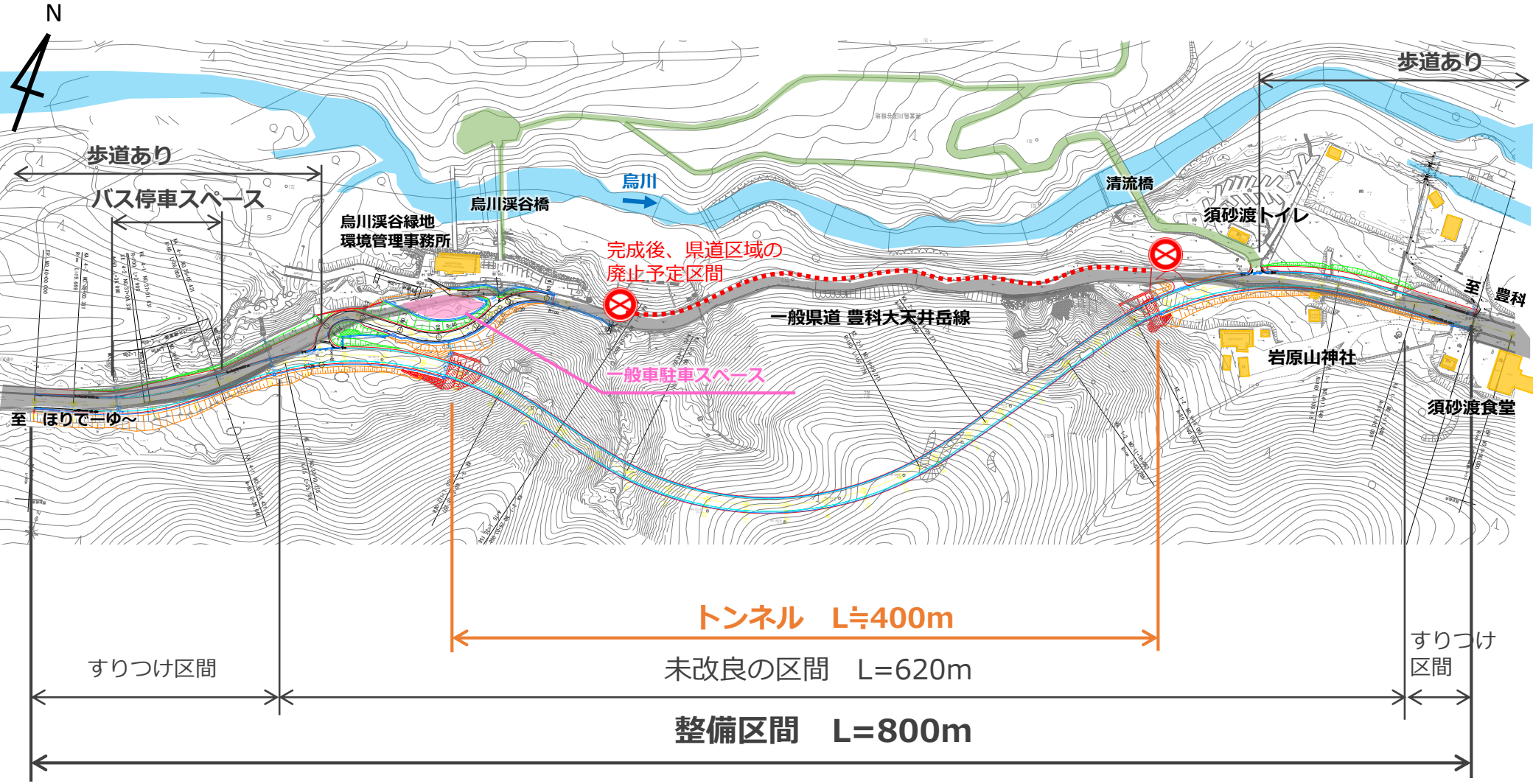
・烏川渓谷緑地、温泉施設、登山口、マウンテンバイクコースなど**学習や観光に利用される道路**となっています。
・**幅員が狭く**、円滑な通行に支障が生じています。
・**落石の危険箇所**があり、通行に危険が伴います。

このため、
・**道路改良により、安全な通行を確保**します。
・現道の落石対策や拡幅と比較して、**トンネルを採用**しています。

平面図　線形計画

R7. 7. 23　説明資料
（一）豊科大天井岳線　須砂渡

安曇野建設事務所

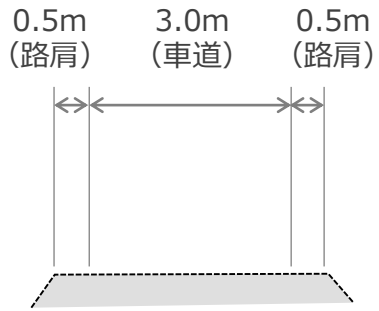


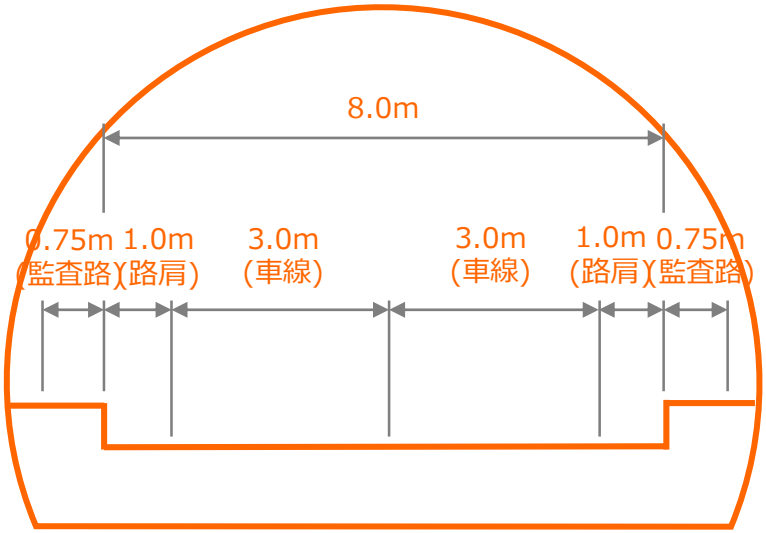
トンネル計画断面

・車道は、改良済み区間と同じ幅員にします。
・対面ですれ違いが可能になります。

検討範囲の現況横断図（最小）

3.0（4.0）m



トンネル計画横断図

6.0（8.0）m